水戸市研究指定
幼保小連携に関する研究（平成２６年度～２７年度）
平成２６年度中間発表

研究紀要

研究主題

「他とのかかわり合いの中で豊かな心を高める緑岡の子の育成」

水戸市立緑岡小学校
水戸市立緑岡幼稚園
水戸市立緑岡保育所

1　研究主題

「他とのかかわり合いの中で豊かな心を高める緑岡の子の育成」

2　主題設定の理由

核家族化や少子化，共働き等による家庭の在り方の変化から，家庭や地域社会の教育力が低下し，幼児期から児童期の子どもに様々な課題が指摘されている。緑岡小学校，緑岡幼稚園，緑岡保育所の教師・保育士から次のような実態が挙げられた。

(1)　課題

小　学　校	幼稚園・保育所
・入学後数ヶ月にわたり，登校時の校門等で泣き叫ぶ。 ・１対１では話せるのに，みんなの前では何も言えない。 ・自分の思いだけで行動したり，苦手なことや嫌なことをはじめから避けたりする様子が見られる。	・担任ではない保育士に，自分の欲求を伝えることが難しい。 ・基本的生活習慣が身に付いていない。（決まりを守る，自分のことは自分でする，挨拶） ・自分の思いを表現できず，泣く，たたく。 ・自分の思うがままに行動し，友だちとトラブルになる。

(2)　身に付けさせたい力

小　学　校	幼稚園・保育所
・自分の考えや思いをはっきりと伝える。 ・相手の気持ちを考えて行動する。 ・困難や失敗を恐れずに挑戦しようとする気持ちを育てる。	・困っていることや分からないことを自分から聞こうとする。 ・言葉による伝え合い。（人の話を落ち着いて聞く，相手の思いに気づく，自分の思いを言葉で伝える。） ・基本的生活習慣を身に付ける。 ・自分で考えて行動できる。

これらのことから，人とかかわることの心地よさの中で活動することで、豊かな心を育んでいく必要があると考えた。また，そのためには，保育所，幼稚園，小学校との段差をできるだけ感じないような互恵性のある交流の在り方を考えることが課題であると考え，本主題を設定した。

3　研究のねらい

(1)　様々な交流活動を通して，思いやりや期待感，自己表現力を育てる。

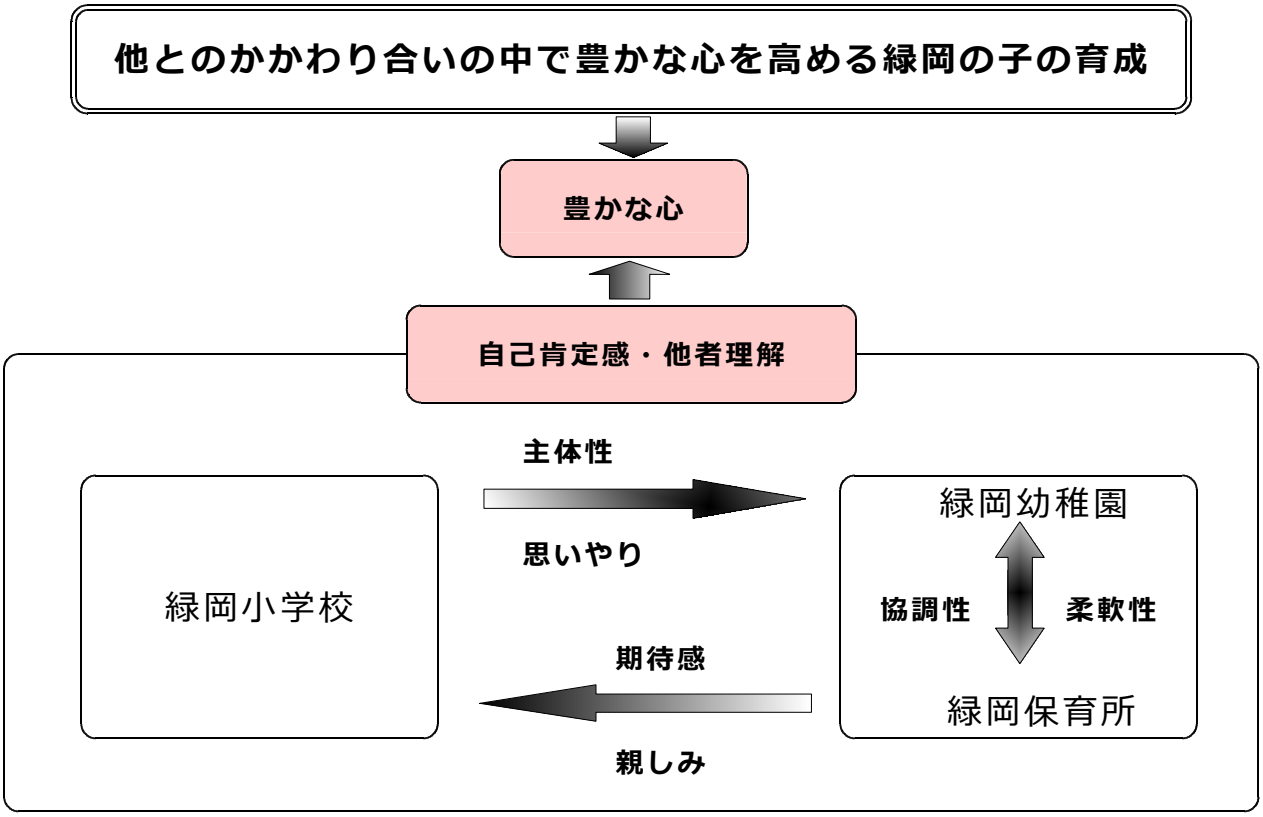
(2)　幼稚園・保育所と小学校の指導内容を相互理解し，互恵性のある交流を実践する。

4　研究の仮説

小　学　校	幼稚園・保育所
・　生活科等において，幼児とのかかわり合いの場を設定し，ねらいや相手意識を明確にして活動させることにより，思いやりの気持ちをもって主体的に活動する力が育成することができるであろう。	・　生活において，幼児が児童や小学校の教師，施設に慣れることにより，小学校で生活する人たちへの親しみや小学校生活への期待感を高めることにつながるであろう。

5　研究の内容

(1)　研究の構想図



(2)　かかわり合いと豊かな心の概要

他とのかかわり合いの中でいろいろな人から温かく見守られたり，認められたり，理解しようと努めたりしたことから，人とかかわることの心地よさを感じることができる。そういった環境の中で活動することで，豊かな心を育んでいくと捉えている。

①　「豊かな心」

自分を大切にすると同時に，他人を思いやる心。そしてルールやマナーを守り，社会に貢献しようとする実践的・積極的な力の基礎となる心。

②　「自己肯定感」

自分の良さに気づき，他者に認められることによって高まる感情。

③　「他者理解」

積極的に相手の話を聞いたり，感情を受け止めたりすることで相手を理解しようとすること。

6　交流活動

(1)　交流活動の概要

4～5月

○幼保小それぞれの子どもの現状とこれまでの交流活動の確認
○目指す子どもの姿の共有
○年間計画の作成
　・幼保小連絡研修会①
　・幼保小連絡研修会②

7月

○小学６年生（図書委員）による幼稚園での読み聞かせ
　・活動の振り返り（アンケート）
○幼保交流活動「幼稚園で遊ぼう」
　・園庭で遊び，おやつをとる

8月

○交流活動の計画立案，交流に当たっての課題や要望
　・幼保小連絡研修会③

幼保小連絡研修会（８／６）

9月

○交流活動　生活科「校庭へおいでよ！」
　・幼保（年長），小（１年）
　・小学校校庭の遊具を利用した交流活動

１０月

○不審者対応避難訓練（幼小）
○交流活動　生活科「いっしょに遊ぼう」
　・幼保（年長），小（１年）
　・小学１年生（６グループ）が計画を立てた内容での交流活動
　・事前に活動内容を幼保に知らせることで，お互いに活動のねらいをもつ

１１月

○交流活動　生活科「ようこそ！秋ランドへ」
○幼保交流活動「芝滑りをして遊ぼう（見川総合運動公園）」「森林公園で遊ぼう」
○「ようこそ１年生」（緑岡幼稚園）
　・卒園した１年生を園に招待し，在園児と交流

１２月

○交流活動　生活科「いっしょに遊ぼう」
　・幼保（年長），小（１年）

1月

○幼保交流活動「保育所で遊ぼう」
　・運動遊び，昼食をとる
○幼稚園たこあげ会（小学校校庭利用）
○新入学児保護者説明会

2月

○入学前児童の情報交換
○幼稚園リズム遊び（小学校体育館利用）
○保育参観を通した幼保小連絡研修会④

3月

○「幼稚園で遊ぼう」（交流会）
　・幼，小（１年）

(2)　交流内容の視点

幼児が児童や小学校の教師，施設に慣れることは，小学校で生活する人たちへの親しみや小学校生活への期待感を高めることにつながると考える。また，児童にとっても幼児とのかかわり合いの中で，思いやりの気持ちをもって主体的に活動する力の育成が期待できる。

年度当初の幼保小連絡研修会では，以下のように交流内容を大きく３つに分け，バランスのとれた交流を目指すことにした。

交流内容の三本柱

子ども	教職員	施設・設備
・交流授業 ・遊びを通した交流活動 ・委員会による活動	・幼保小連絡研修会 ・保育参観 ・交流活動前の話合い ・交流後のアンケート	・校庭，遊具 ・体育館 ・教室 ・園庭，遊戯室

(3)　交流活動の概要

①　「絵本読み聞かせ」　平成２６年７月４日

行事の概要	（内容）	・小学校６年生の図書委員が，幼稚園で絵本の読み聞かせをした。 ・自己紹介→読み聞かせ→感想発表，質問
	（場所）	・緑岡幼稚園
	（人数）	・緑岡小学校６年図書委員（１２名） 緑岡幼稚園（年長２クラス，年少２クラス，９６名）
ねらい	（幼）	・小学生に親しみをもち，絵本を見ることができる。。
	（小）	・園児に伝わるような本を選んだり，かかわりを工夫することができる。
参加した子どもの姿	（幼）	・小学生が来てくれることを楽しみに待っていた。 ・小学生が帰った後，「また来てくれるといいね」と園児たちの間で言葉を交わしていた。 ・園児の感想や質問に戸惑いながらも応えてもらえたことで親しみがもてた。 ・大きなお兄さん，お姉さんは何でもできて優しいという印象をもてた。
	（小）	・みんなに聞こえるように，大きな声ではっきり読んでいた。

・絵がよく見えるように高く上げ，持つ部分をできるだけ小さくしていた。
・幼稚園児が静かに聞いてくれて，時々笑顔も見せてくれたのでうれしそうだった。
・幼稚園児が「楽しかった」「おもしろかった」と言ってくれた。もう一度やってみたい。

考　察

・本の内容について振り返る時間を設けて，クイズ形式で行えばもっと楽しめるかもしれない。
・普段，園児読ませるものではなく，絵本の内容も絵も怖かった。どのようなものが園児に向いているかもう少し話し合ってほしい。
・いつもより話に釘付けで，集中して聞いていた。
・読み始める前に簡単な手遊びがあるとさらによかった。

② 「校庭へおいでよ！」　平成２６年９月１８日

行事の概要

（内容）・小学校の校庭と遊具を使って，幼稚園・保育所の年長児と小学１年生がいっしょになって楽しく遊ぶ。
・あいさつ，注意事項→じゃんけん列車（自己紹介）→遊具を使っての遊び→感想発表→あいさつ
（場所）・緑岡小学校校庭
（人数）・緑岡小学校１年１組，１年５組（７１名）
・緑岡幼稚園年長組（４８名）
・緑岡保育所年長組（２１名）

ねらい

（幼保）・小学校の遊具や広い校庭で友達や小学生といっしょに遊ぶことができる。
（小）・年長児に順番を譲ったり遊びに誘ったりしていっしょに楽しく遊ぶことができる。

参加した子どもの姿

（幼保）
- 「校庭」という言葉を初めて聞いた。
- １年生や小学校の先生が優しかった。
- まだお互いに恥ずかしさがあった。
- 大きな建物に驚いていた。
- いろいろな遊具に挑戦してダイナミックに遊んでいた。
- 昨年までいっしょに遊んでいたお兄さんお姉さんに会えてうれしそうだった。

（小）
- 「じゃんけん列車」の時，自然に園児の目の高さに合わせて話をしていた。
- ブランコに乗っている子どもの背中を押してあげたり，手をつないで遊びに連れて行ったりしてあげていた。
- まだ慣れていないのか，全体的に会話が少なかった。
- 年長児に順番を譲っていた。
- 同じ遊具を使って遊ぶ中で，おしゃべりをすることができていた。

考　察

- 事前に内容を幼稚園や保育所に知らせておくと，協力できることもあったのではないか。
- 校舎内や実際に勉強している姿も見学できる機会があると，より就学が楽しみになるであろう。
- 広いトラックを思い切り走る幼児の姿が印象的だった。小学生対保育所・幼稚園などのリレーのような遊びを取り入れてもよかった。

③　「いっしょに遊ぼう」　平成２６年１０月７日

行事の概要

（内容）
・小学校のクラスごと，グループごとに子どもたちが話し合い計画を立てた内容で交流活動を行う。
・あいさつ，注意事項→全員遊び（１の１と幼：うめ組，保：Ａグループ）（１の５と幼：さくら組，保：Ｂグループ）→グループ遊び（６グループに分かれて鬼遊びなど）→感想発表→あいさつ

（場所）
・緑岡小学校校庭

（人数）
・緑岡小学校１年１組，１年５組（７１名）
・緑岡幼稚園年長組（４８名）
・緑岡保育所年長組（２１名）

ねらい

（幼保）
・小学生に親しみをもち，一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

（小）
・年長児に楽しんでもらうために，活動を工夫したりルールを考えたりして，自分が大きくなったことやできるようになったことなどに気づくことができる。

参加した子どもの姿

（幼保）
・クラスごとに分かれた遊びだったので，前回よりもかかわりが増えた。
・とても楽しかったようで次回も楽しみにしていた。
・小グループの活動はより身近に１年生を感じることができたようだ。

（小）
・６グループというグループの多さと広い校庭で，自分のグループがわからなくなってしまう子がいた。
・前回よりも積極的に園児を誘っていた。
・前回よりも表情も柔らかくなり，児童自らの言葉（思い，考え，意見等）がたくさん出ていた。
・年長児に一生懸命声をかけまとめていこうとする姿が目立った。
・活動内容などの説明時，文章をスムーズに読み上げることができずに年長児が戸惑っていたが，それを自分の言葉でフォローする児童がいた。

考　察

・校歌を歌ってくれてよかった。
・職員が余裕をもって見られるグループ数にすればさらによかった。
・年長児にとっても大勢の前で感想を言う経験はとてもよい機会だった。

・子どもたちだけでなく，この交流学習は職員にとっても楽しみな活動になっている。

④「ようこそ！秋ランドへ」平成２６年１１月１４日

行事の概要

（内容）・小学校のクラスごと，グループごとに子どもたちが話し合い計画を立てた内容で交流活動（木の実や落ち葉を使った遊び）を行う。

・歓迎の言葉，一緒に歌おう→遊ぼうタイム（どんぐりごま，どんぐりすくい，はっぱのカルタ等）→感想発表，お礼の言葉，校歌を聞いてね→見送り

（場所）・緑岡小学校１年各教室

（人数）・緑岡小学校１年１組～１年５組（１７４名）

・緑岡幼稚園年長組（４８名）

・緑岡保育所年長組（２１名）

ねらい

（幼保）・小学生と一緒に行動しながら，楽しく活動に参加できる。

・秋の活動を振り返り，表現することができる。

（小）・年長児に自分の姿を置き換え，どうすれば相手が喜んでくれるか相手意識を持った言葉かけや行動をとることができる。

参加した子どもの姿

（幼保）・楽しそうに笑顔で参加していた子どもや１年生の行動に興味・関心をもって見ていた子どもが多かった。

・パートナーのお兄さんお姉さんを頼って楽しく参加できた。

・年少児におみやげを見せたり，出来事を伝えたりしていた。

・自分たちでも同じように遊ぶことはできないか，話し合っていた。
・自分たちが１年生になったら今度は年長児にやってあげるという楽しみや責任を感じたようだった。

（小）
・「秋ランドに招待する」という目的から，今までのかかわり方よりも積極的だった。
・名前を覚えて声をかける様子や遊びの説明や遊び方を教える姿，トイレへ行きたいかどうか尋ねる姿など，気を遣い優しく接する姿が多々見られた。
・どの小学生も年長児にわかりやすい言葉で優しく話しかけていた。言葉で説明して，やって見せて，時には一緒にやったりと積極的にかかわっていた。

考　察

・歳が近い身近な１年生に手をつないでもらい安心して活動できたようである。椅子や机に触れることができたことも良い体験だったと思われる。
・年長児がこの時期に小学校の校舎に入るのは就学に向けた一歩（期待感）になる。
・小学生にとっても進級を感じる良い機会になった。
・小学生のわかりやすく手本を見せる姿に主体性や優しさがあった。
・休憩時のトイレに付き添い，「和式なんだけど大丈夫？」という声かけができた。

⑤「保育参観」平成２７年　２月２５日

行事の概要

（内容）
・年少組の園児が「お別れ会」で年長組の園児に渡すプレゼント「動物の写真立て」を作る。
・年長組の園児が年少組の園児に渡すためのプレゼント「製作シ

ート」を作る。

（場所）　・緑岡幼稚園各教室

（人数）　・緑岡幼稚園年長組（５０名）

・緑岡幼稚園年少組（４９名）

ねらい

（年少）　・年長児へのプレゼントを，気持ちを込めて，丁寧に作ろうとする。

（年長）　・年少児へのプレゼント作りを通して，園生活を振り返りながら製作を楽しむ。

（保小）　・お互いの教育内容や指導方法の違いや共通点，幼児や児童の実態について理解を深める。

参加した子どもの姿

・先生に質問をする時「～するんですか。」と丁寧な言葉遣いができていた。

・先生の目を見て，落ち着いて話を聞いていた。

・道具を使ったり，自分で材料を探すなど難しい作業だったが，自分で選択して自分で考えて，あきらめずにじっくりと作業ができていた。

・「ひらがな表」を見ながら丁寧に心を込めて文字を書いていた。

・４人グループで１枚の「ひらがな表」を向かいの友だちに見やすいよう向きを変えて見せていた。

・子どもの思いやイメージが豊かなため，先生の作ったサンプルとは違うものができあがった。楽しそうに作業をしていた。

・工夫したことなど自分の思いや考えを伝えていた。もっと話したそうだった。

考察・感想

・サンプルとは違うものができあがったが，教師が子どものそれぞれのイメージを大切にする言葉かけをしていた。

・作品を先生に見せに来た子どもに対して，先生は作品ではなく子どもの顔を見ていた。

・指示を出す高さが子どもの目線になっていた。

・環境（道具，サンプル，板書）が整っていたため，長時間集中して作業できた。

・温かな環境，知につながる環境であった。小学校でも参考にしたい。（ザリガニのそばに図鑑や虫眼鏡，温度計，文字や数字の意識）

・児童の姿勢が悪いと感じることがあったが，小学校の椅子が実態に合っていなかったのかもしれない。

・個人個人が同じ目標で同じ作業をしていたが，一人一人に寄り

添うことで，できる，できないの差ではなく達成感を味わうことができた。

7　研究のまとめ

幼・保・小連携を充実させるための研究に取り組み，次の点が明らかになった。

(1)　思いやりや期待感，自己表現力を育てる様々な交流活動から

小　学　校	幼稚園・保育所
・交流活動の目標を明確にさせ，幼児とかかわることで，自己肯定感，達成感を味わうことができる。 ・自分よりも幼い幼児とかかわることで思いやりをもって接するにはどうすればよいか考え，行動しようとすることができる。	・小学校の様子を知ることで，安心感・あこがれをもつようになった。 ・いろいろな人とのかかわりを楽しむことができる。 ・人とかかわる力，自分の思いを伝える力が身に付いてきた。 ・小学生に親切にされたことで，園内の友だち同士のかかわりの中に，思いやりのある行動が見られるようになった。

(2)　幼稚園・保育所と小学校の指導内容を理解した互恵性のある交流の実践から

<table>
<tr><th>小　学　校</th><th>幼稚園・保育所</th></tr>
<tr><td>・幼保小連絡研修会や交流活動を通して，幼保の幼児の実態や担任の願いを知ることができる。</td><td>・就学後の児童の様子や小学校で困っていることを知ることで，就学前の指導のポイントを知ることができる。
・幼児や児童の実態把握ができ，就学に向けたアプローチの仕方を検討することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・それぞれの発達段階や教育内容，子どもへのかかわり方への相互理解が深まる。その結果，自分の担当する子どもへの指導・援助に生かしたり，改善に努めることができる。</td></tr>
</table>

8　今後の課題

<table>
<tr><th>小　学　校</th><th>幼稚園・保育所</th></tr>
<tr><td>・１年生以外の学年による交流活動を開発する。
（学級活動，クラブ活動，委員会活動）
・より深まりのある交流活動を実践するための計画を立案し，見通しを立てる。
・小学校と保育所との距離があり，子ども同士の交流の機会が幼稚園に比べて少なかった。今後，夏季休業中に保育参観をするなど，交流活動の機会を増やしたい。</td><td>・４月，５月における１年生の実態を把握し，小学校教師との情報交換を密にすることで，なめらかな接続に向けてのカリキュラムを作成していく。
・より深まりのある無理のない交流活動を実践するため，幼保小の教諭，保育士が子どもにどのようにかかわるのか，共に計画を立案し，教育内容を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・小学校入学時スムーズに適応できるようにするための「アプローチ・スタートカリキュラム」の見直しをしたい。</td></tr>
</table>

9　参考図書

幼稚園教育要領　文部科学省　平成１０年
保育所保育指針　厚生労働省　平成１１年
小学校学習指導要領　文部科学省　平成１０年